

『GAPの知識・経験を、農業高校から地域の生産現場へ』 11品目のASIAGAP認証取得(留萌管内初)

北海道遠別農業高等学校(遠別町)



(校舎とめん羊の様子)

【学校の概要】

- 学校長 佐藤 裕二
- 生徒数 64名
(うち、GAP認証取得担当 生産科学コースの9名)
- 実習農場面積等
5.3ha(うち、認証取得面積1.4ha)
めん羊(サフォーク種)繁殖用約20頭(2019年10月)
- URL
<http://www.enbetsunougyou.hokkaido-c.ed.jp/>

◇【取組の経緯と概要】

- ◆ 遠農マルシェ等で、生徒が生産する農産物を、安全・安心なものとして提供しており、第三者からの認証を得ることで、安全・安心の根拠が生まれることを期待

⇒ 有機栽培を開始し、有機JAS認証(たまねぎ、にんじん、にんにく)を取得(2017年11月)

- ◆ 食品安全、環境保全、労働安全等の農業生産工程管理についての知識・技術等を身につけるため国際水準のGAP取得への実践

- ◆ 2020年の東京オリンピック、パラリンピックの食材提供を目指す等、グローバルなマーケットへ視点を向ける

⇒ ASIAGAPの認証取得を目指す

【取組の成果】

- リスクの洗い出しを行うことにより、生徒の農作業安全や防疫に対する意識が向上
- 農場におけるマニュアルの作成により、生徒、先生が代わっても、継続した生産活動の実施に繋がる
- 取組の結果、ASIAGAP穀物Ver. 2.1「米(粳、玄米)、小豆、大豆」及びASIAGAP青果物Ver. 2.1「アスパラガス、かぼちゃ、しそ、スイートコーン、たまねぎ、にんじん、にんにく、ばれいしょ」の11品目の認証を取得(2019年7月)

【今後の展望】

- 記録の徹底と作成したマニュアルの改善
- 農業高校で習得したGAP等の知識や経験を、地域の生産現場に普及
- 地域農産物の国際的な取引に関する課題を発見する等グローバル化への対応
- 食品加工におけるHACCPの取得

【取り組む際に生じた課題と対応方法】

- GAPに対する知識の不足

⇒ 農業改良普及センターからの指導

JGAP指導員の資格を持つ2名の先生が、ASIA GAP指導員資格を取得して知識の向上

- 認証取得費用の確保

⇒ 遠別農高関係者で構成する連絡協議会が設立され、地域農業や地域社会の持続的かつ安定的な発展に寄与する農業の担い手の育成に関わる維持・更新費用等の助成を計画

- 審査基準に即した書類作成の苦勞

⇒ 遠別町からタブレット型PCの貸与を受け、日々の作業記録等のデータを蓄積し情報を共有



(公開審査の様子)

(収穫した農産物)